

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2年 11月 17日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493600088		
法人名	社会福祉法人 三篠会		
事業所名	グループホーム向原		
所在地	広島県安芸高田市向原町坂350番地 (電話) 0826-46-7022		
自己評価作成日	令和2年10月7日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3493600088-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年11月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>1階が保育園、2階がグループホームという安芸高田市初の合築施設であり、園児たちとの季節行事の交流はもちろんだが、天気の良い日には利用者が園庭まで散歩に行き、園児たちとの触れ合いを楽しんだり、また、日常的な関わり、触れ合いが持てる形での交流に力を入れている。グループホームの設えにおいても、施設感を感じさせないように意識し、利用者自身が「自分の家」として生活していただけるように、生活空間や環境づくりの充実に努めている。</p> <p>また、地域住民との交流が図れるように、日頃から散歩や地元のスーパーへの買い物や地域の催事等の行事に積極的に参加している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所の特徴として保育園が併設している事から、園児達との合同の行事や災害訓練等も行い、園児達にとっても高齢者と関われる機会となり、相乗効果となっている。日常的に園児達の声や走り回る姿を見て、聞いて、過ごせることで利用者が穏やかに過ごせる雰囲気を提供している。また隣接している生涯学習センターも、利用者の生活の質向上に繋がられるように、図書館の利用や文化祭開催時に出展を行っている。運営推進会議においては、実際に顔を合わせて行う事が重要であるという考えから、人が集まる事が難しい時期においてもしっかりと距離がとれる場所を確保し会議を開催し、その意見を利用者の処遇向上に繋げている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	事業所の理念を基に全職員でケアの具体的な目標策定と意見の統一を図っている。家庭的な雰囲気の中で、本人の出来る事(役割)や、好きな事を見つけていただき、地域との関わりを踏まえたプランを作成し、共有している。	事業所の理念を基に各入居者の支援計画へ意識して反映させており、各支援場面と事業所理念の解釈を職員間で共有させている。また、職員は事業所理念を基に個人目標を立てて、年2回実施状況を確認し次年度の目標へと繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	例年、地域行事の情報収集に努め、地域行事には職員と一緒に参加していただいたり、隣接する生涯学習センターみらいの図書館利用や近隣の商店での買物、外食、美容院の利用等、地域の方と関わりが持てるよう配慮していた。地域の傾聴ボランティアさんに時々来ていただいている。地元のとんどにも利用者と共に参加していた。(コロナ禍の為、上記の活動を自粛している。)	祭や行事が盛んな地域であり、様々な行事へ参加出来るよう支援している。隣接する生涯学習センターでの文化祭には、手芸の作品や入居者の写真展も展示し地域からの理解を得ている。行事参加を行う事で、久しぶりに会った知り合い等がその後面会してもらえる機会にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	例年、地域行事への参加は基より、年4回広報紙を発行している。2年に1回開催されている地域の文化祭に作品を出展する等、認知症理解や施設の取り組みへの理解が得られるよう努めていた。地域高等学校のクラブ(フラダンス)の発表の場の提供・交流や福祉授業(実習)を受け入れていたが 現在、コロナ禍の現状をふまえ、地域行事等も中止となっており、地域交流も三密を避けている。広報紙の発行等で施設の様子を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	例年、年4回、定期的実施。行事や利用者の状況等をスライド写真で分かりやすく報告し意見、情報交換の場を持ち、サービスの質の向上に努めている。利用者、家族、行政担当者や民生委員、地域の傾聴ボランティアの方や音楽療法の先生にも参加していただいていた。現在、コロナ禍の現状をふまえ三密にならないよう、利用者の参加は見合わせたうえ、隣接している生涯学習センターみらいを利用し、スライドを使用した運営推進会議を開催した。	事業所の活動や紹介をスライドで流し、より解りやすく活発な意見が出るように工夫している。コロナ禍であってもソーシャルディスタンスをとり、実際に顔を合わせることを重視し開催している。会議で意見が出にくい際は、その後参加者に個別に意見を聞くよう配慮している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政担当者とは運営推進会議を通じて事業所の実績やサービスの取り組み等の情報交換を行っており、連携を密にしながら質の向上に努めている。	運営推進会議で意見や情報交換を行っており、必要に応じてアセスメントやモニタリング等のサービスの取り組みに関しても連携し、入居者の処遇向上に努めている。また、地域包括支援センターや社会福祉協議会等とも連携し、相談や協力を行い連携に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>1階が保育園ということもあり、安全面を考慮し、玄関の自動扉はセンサータイプとなっている。日中はテラスを開放している。利用者の要望に応じて職員と一緒に屋外に出ている。緊急や、やむを得ない身体拘束については、月一回、身体拘束委員会を設け、対象者についての状況や家族同意についても報告している。</p>	<p>月に1回の身体拘束委員会の会議にて検討し、入所者の処遇について確認を行っている。保育園と併設している関係上、防犯の視点から玄関の自動扉はセンサータイプであるが、事業所のテラスは解放されており入居者に開放的な雰囲気を提供している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待についてスタッフ会議や普段から職員同士で話し合えるようにし、お互いストレスを少なくするよう心がけている。また、法人内外の研修に参加している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護については関連資料を閲覧できるように心がけている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入退所時に面接や調査を行い、契約内容等説明。十分に納得の上で契約を結んでいる。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議を定期的開催し、利用者や家族等からの意見を聞く機会を設けている。参加できない方には、会議の議事録と共に、広報誌を郵送し利用者の活動、表情等の様子を目で見てお伝えできるよう配慮している。現在、コロナ禍の現状をふまえ、抵抗力の弱い利用者の三密状態を避けての開催を行った。</p>	<p>運営推進会議において利用者、家族等から意見を聞く機会を設けており、不参加の家族等には返信用封筒を同封した議事録を送付し意見を聞くように配慮している。ユニット内の職員は固定しているので、面会時家族等から見ても意見交換が出来やすい関係性が構築されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各ユニットで月1回以上、ユニット会議を開催。また両ユニット合同によるグループホーム会議を月1回開催し、意見や情報交換や報告の場を設け、サービス向上に反映させている。	各ユニットでの会議と、全体の会議と月2回の会議を行い、事業所長に直接意見を伝えられる場を設けている。新しい提案はどちらかのユニットで一定期間試し、再度会議で評価する等の仕組みも確立されており、職員の意見を反映させる仕組みが出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	雇用管理者による年1回、個別面談を定期的に行い、就労状況の把握、人事希望により働きやすさの向上に努めている。また有給休暇を取得しやすいよう、職員間のコミュニケーションの充実を図り、併せてストレス対策をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修(新任職員研修、処遇職員研修等)の参加や認知症介護実践研修等の外部研修の参加の機会を設けている。また2ヶ月に1回、担当職員が自ら企画、進行しての施設内研修を実施し、職員の意欲向上に努めていたが、現在、コロナ禍の現状をふまえ、施設内外での三密状態となる研修は控えている。ケアプランの作成やアセスメント実施を通し、各担当職員に個別指導している。年一回の法人主催のベストサービスアワードについてZOOMを用いての参加を行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	例年、関連事業所、または地域の行事や研修会等に積極的に参加し、交流・意見交換を通して、業務改善、サービスの質の向上に努めている。また、法人内のグループホームとの交流会を実施しており、利用者の交流は基より、職員同士の情報交換の場となっていた。地域多職種交流研修等への参加もしていたが、現在、コロナ禍の現状をふまえ利用者は基より、同業者の職員間の交流も控えている。入退所連携窓口を活用し情報交換や情報収集に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアマネを通して本人に関する情報を収集したり、利用開始前に本人と家族を含めた事前面接を行い、要望・不安な点等を聞く機会を設けている。利用開始後も本人の思いを十分に傾聴し、利用者にとって安心できる存在の職員としての関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>利用開始前に本人と家族を含めた事前面接を行い、要望・不安な点等を聞く機会を設けている。利用開始後も来所時に利用者の様子を伝えたり、遠方の方には電話での状況報告等を行っている。また運営推進会議を通じて家族の思いを知る機会を設けたり、面会時に家族に対しての接遇に十分配慮したりと信頼関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>専門職が連携を取りながら、本人や家族と情報交換を行い、本人の希望に添えるよう努力している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日々の生活や生活歴を通じて本人の得意分野等を見出し、共に楽しく行えるよう、また、日々の暮らしに活かせるよう努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>運営推進会議で定期的な利用者の近況報告を行っている。面会にも来ていただきやすい雰囲気作りを大切にし、利用者、家族、職員で協力し利用者を支えあう関係作りに努めている。家族状況を理解し、夜間の面会や電話の対応もしていけるよう工夫している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>施設関係者以外の来園に対しても明るく挨拶をし、いつでも来ていただけるような雰囲気作りに努めている。また地域のお祭りや買物外出、個別レクリエーション等を通じて馴染みの人や場所に関わるれるよう努めていたが、コロナ禍の現状をふまえ、祭り等の参加は控えた。</p>	<p>各ユニット専属で職員を配置しており、入居後に職員との関係性が早く構築出来るよう、配慮している。地域との関係性は入居の際に聞き取りにより把握し、家族の協力の元、旅行や自宅泊を行い、墓参りや外食等の外出支援も行う事で地域との関係性が途切れないように配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活や行事、外出等を通してお互い助け合いながら生活していただいている。トランプやかるた等のレクリエーションにも工夫し、利用者同士の関わり合う機会が多く持てるようにしている。また、食堂においてコミュニケーションが取りやすい雰囲気作りにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も退所後の受け入れ先等からの相談や調整を行っている。また、他施設入所後も情報共有に努め、関係を大切にしていくように努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から関わりや会話・表情からの気づきを大切に、本人・利用者同士の何気ない会話から思いや暮らしの希望、意向の把握に努め、家族と情報共有し、利用者本位の生活が送れるように配慮している。	意向については、入居時の聞き取りのもと、日々の支援の中で情報を追加、更新したものを連絡ノートや記録で情報共有し支援に反映させている。また、聞き取りの言語だけにとらわれず、表情や仕草等も意向を汲み取れる情報源であることを職員間で共有し実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者、家族、面会の人たちからこれまでの生活等のお話を聞き、馴染みの暮らし方、生活環境に近づくように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎朝、体操参加を促し、その際の動作表情等、様子観察を行っている。その日の状態に応じて、本人に合った過ごし方ができるよう、情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>日頃の様子や気づきを記録に残し、月1回開催のユニット会議にて処遇を行い、朝の申し送り等にて意見交換、情報共有をしている。また、カンファレンスも実施し、利用者、家族の意見を聞き、介護計画を作成している。</p>	<p>日々モニタリングを記入し、計画担当者が必要に応じて確認している。細部は職員に聞き取りを行い、課題に関しては会議で話し合いを行っている。また、アセスメント様式は、センター方式を基に自施設で作成した書式を使用し、併設の保育園や音楽療法等事業所の特性を盛り込み計画を立てている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別にケース記録を作成し、日々の様子等の記録を行っている。排便、入浴、シーツ交換等の表にも記録を取り、職員間で情報を共有しながら実践の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>既存のサービスに捉われないことなく、本人や家族に満足していただけるよう検討をし、柔軟に対応している。生活リハビリのみにとらわれず、利用者の希望に応じて、協力医療機関と連携し、リハビリ通院も行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>例年、地域の行事に進んで参加したり、地元の高校生や傾聴ボランティアの受け入れ等、地域の協力を得ている。また音楽療法(月1回)の開催も含めて、利用者が生き生きと豊かで楽しい生活ができるよう支援しているが、現在、コロナ禍の現状をふまえ、ボランティアの受け入れは控えている。緊急事態宣言解除後は感染予防に努めながら、音楽療法(月一回、1ユニット30分)を再開している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医療機関が主治医になっている利用者には、月2回往診をして頂き、連携を図っている。また、その他のかかりつけ医を受診されている方は基本、家族対応をお願いをしているが、必要に応じて介護職員が付き添いを行い、適切な医療が受けられるように支援している。医療機関と連携を密にし、希望に応じてリハビリ通院も実施している。</p>	<p>入居の際に担当医の選択、確認を行っている。協力医療機関の担当医以外の主治医を選択した場合でも、緊急時協力医療機関の医師が対応可能である。また、専門医への受診についても家族に協力してもらい、専門的な内容に関する受診については職員も同行し通院を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>体調の変化や気づき等があれば、直ちに家族、かかりつけ医に報告、相談をし速やかに受診ができるように対応する。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時には医療機関と情報交換を行い、連携を密に図っている。退院においては入院中に状況確認を行い、受け入れ体制を整える。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入所前面談の際に終末期ケアを実施していないことの説明を行っている。入所後において、事業所で出来る事を主治医に報告し、今後予測出来る事柄を本人、家族とを十分に説明しながら方針を共有し、重度化した場合は安心して生活できる場の提供や相談を随時、行っている。介護、看護サマリーの情報交換を密にし、状況把握に努めるようにする。</p>	<p>事業所では重度化や終末期のケアの対応を実施していないことを本人、家族、主治医へ入居前に説明している。またそのことで不安が起らないよう、利用者の状態に合った施設への情報提供や相談を行う事や、本人、家族の意向に沿った支援の選択を職員も一緒に考える事を伝え実践している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>AEDや吸引機を設置し、急変時に備えている。救命救急研修や感染予防研修の実施。また、緊急時における救急搬送を円滑に行えるよう、エレベーター作動(ストレッチャー対応)の訓練を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>緊急連絡網を作成し、毎月実施する保育園の避難訓練時に参加している。夜間の災害を想定したマニュアルを作成し、慌てない対応が出来るようグループホーム職員間、周知を行っている。また、保育園が市との協定にて避難場所となっており、災害時情報の共有を図ることが可能である。</p>	<p>毎月併設の保育園と合同で災害訓練を行っている。事業所は2階にあり、火災の際早く避難出来るようオープンテラスを使用したりと既存の避難訓練に捉われず柔軟に実施している。災害時の備蓄も3日分あり、マニュアルも全職員が確認出来る様に整備されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーが損なわれないよう配慮し、記録の取り扱いについても慎重に行っている。また、趣味や特技が活かせる生活の場を提供している。	個人情報に関する書面については、施錠出来る場所に保管している。利用者はさんづけで呼ぶことを統一し、居室へはノックして入室し、居室のドアは閉めて過ごしトイレには鍵をかける等、当たり前前が当たり前前に提供出来る事業所であるように留意して支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自分の思いや希望が表出しやすい雰囲気作りを大切にし、職員との信頼関係が築けるように配慮する。また、利用者の思いに寄り添うような関わりも大切にする。表出が困難な方には馴染みの職員が表情の変化等を通して思いを汲み取ったり、ゆったり傾聴できる時間を持つようにする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	行事等の参加を無理強いせず、気分が乗らない方には自分のペースで過ごしていただけるよう、思いを聞き出し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望に沿ってお化粧をしたりと身だしなみやおしゃれができるように支援している。外部の理髪業者に依頼(毎月1回)をして、希望者には施設内で散髪を実施している。また、地域の美容院を利用希望へも個別対応をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の盛り付けや配膳を職員と一緒にし、楽しい雰囲気の中で共に食事をしている。食器においても陶器を使用し、目で見て楽しめる食事の時間を提供している。好みについても本人や家族に嗜好調査を行っている。	お米が見えやすい茶碗や、持ちやすい汁椀等、利用者の状態に合わせ食器を選定している。米はユニットで焚き、副食は取り分けており、その作業も利用者に参加してもらっている。嗜好調査も年1回行い、主食を巻き寿司やちらし寿司等に変更し好みを反映させている。	

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの日々の体調をみながら、本人の希望する量にあわせて、提供している。水分補給についても、個々の要望に応じて好みの飲み物を提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後一人ひとり口腔ケアを促し実施していただき、声かけや一部介助等も個々に応じて行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>自立、一部介助等、個々に応じて支援している。排泄に不安がある方には安心して行えるように配慮し、必要に応じて声掛けや誘導等を行い、自立に向けた支援を個々に応じて行っている。</p>	<p>夜間もポータブルトイレを使用し、座位姿勢での排泄支援に努めている。各個人に合った下着や介護用品を検討、使用を促している。また、排泄のパターンを知る為に本人確認の他、手を洗う行為やトイレの流れる音などトイレ後の動きに留意し確認して排泄パターンの把握に繋げている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>毎日ラジオ体操、リハビリ体操の運動を行い、水分補給にも気をつけている。また、本人へ確認をしたり、状態を見ながら個々に応じてお腹のマッサージを実施している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴を希望される利用者について、タイミングを合わせられるよう声かけを行い、また、できるだけ利用者の希望にそえるように支援している。</p>	<p>1日3名で週2～3回の入浴を提供している。本人の望む入浴を確認し、夕方に近い時間帯や1番風呂等で提供している。また、同性介助に抵抗がある利用者には職員を変更し対応している。季節にはゆず湯等提供し、楽しみのある入浴が提供できるように配慮されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	個々の利用者の生活リズムを尊 重しながら、日々ゆったりと過 ごしていただけるように支援し ている。夕食後、ゆっくりと利 用者間雑談をされたり、自室 やフロアにてテレビを見たりと 本人のペースで過ごされている。 就寝準備の際、穏やかな声掛 けを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	処方通り服薬していただき、確 認している。また状態によっては 職員で話し合い、必要に応じて ご家族への相談、報告をし、医 師、薬剤師とも連携を図ってい る。下剤に関しては本人の排便 チェックをし、医師、薬剤師の 指導の下、服用、時間、量を 決めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	日々、本人の思いを考慮し、で きる限り、好きな事ややってみ たい事、やりがい等を見出して いただけるように支援している。 具体的には、食事の配膳準備 や始末、フロア清掃、カラオケ や買い物等がある。その日の体 調の変化に応じて、臨機応変に 支援している。(コロナ禍の為、 買い物外出は自粛している)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	散歩や隣接する生涯学習セン ターみらいの図書館に職員と一 緒に行っている。また、趣味や 食事等のため、ご家族や職員と 一緒に外出もされていたが、コ ロナ禍の現状をふまえ、買物外 出は控えている。季節や体調を 考慮しながら、気分転換ドライ ブが出来るよう検討し計画して いる。	日常的に隣接する図書館へ外出 ができ、事業所と図書館の間 にも併設する保育園があること から、距離は短い。内容とし ては外出中、色々な人と会える 環境となっている。また、買物 や散髪の手伝いや、盆や正月に は家族の協力の下、外泊や外 出の支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	買い物の希望がある時は、必要 に応じて施設で立替金を準備し 、一緒に買い物外出できる機会 を設けていたが、コロナ禍の現 状をふまえ、買物は家族や職員 が支援している。三密を避けた 短時間での買い物外出も検討し 計画している。		

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人や家族の希望があれば支援を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>洋を意識した設え。共用空間は利用者と共に清掃を行い、清潔を保つようにしている。必要に応じて、テレビの音量やエアコンの風量などを調節し共有スペースでの家庭的な雰囲気づくりと、利用者にとって居心地のよい場所になるよう心がけている。</p>	<p>家庭的な雰囲気に留意しており、併設する保育園児の声等も利用者がいつも耳にし、その楽しそうな声に誘われてテラスに出かけ1階の広場で遊ぶ園児たちを利用者が眺めている。また必要に応じて自然と腰をかけられる場所に長椅子を設置し心地の良い空間となるよう取り組んでいる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食事や談話、テレビを楽しむスペース等を設けている。フロアにはソファを設置し、利用者同士で会話も楽しめる場を設けている。また、廊下にはベンチチェアを設置しており、独りで過ごせる場を確保している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室は本人や家族と相談しながら、入居前に使用していた馴染みのものや趣味で使われる物を持ち込んでいただく等して本人にとって居心地のよい部屋となるよう工夫、協力している。</p>	<p>入居前に本人、家族と自宅から持ち込んでもらえる物を確認している。賞味期限等管理が必要な物に関しては、ユニットの冷蔵庫でも管理が出来る。室内については洋風であるが、生活歴や希望に応じて和風の居室環境も可能である。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>生活上の注意点、趣味等の情報を職員間で共有し、サービスの向上に努めている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	事業所の理念を基に全職員でケアの具体的な目標策定と意見の統一を図っている。家庭的な雰囲気の中で、本人の出来る事(役割)や、好きな事を見つけていただき、地域との関わりを踏まえたプランを作成し、共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	隣接する生涯学習センターみらいの貸し出し図書を利用したり買物等でも地域の方と接点を持つよう配慮したり等、日常的な関わりから情報収集をし、地域行事にも参加している。地域のスーパーで買い物をし出会った方と交流を図っていたが、現在、コロナ禍の現状をふまえ間接的な地域交流を図れるよう試行している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	例年、地域行事への参加は基より、年4回広報紙を発行している。2年に1回開催されている地域の文化祭に作品を出展する等、認知症理解や施設の取り組みへの理解が得られるよう努めていた。地域高等学校のクラブ(フラダンス)の発表の場の提供・交流や福祉授業(実習)を受け入れていたが現在、コロナ禍の現状をふまえ、地域行事等も中止となっており、地域交流も三密を避けている。広報誌の発行等で施設の様子を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	例年、年4回、定期的実施。行事や利用者の状況等をスライド写真で分かりやすく報告し意見、情報交換の場を持ち、サービスの質の向上に努めている。利用者、家族、行政担当者や民生委員、地域の傾聴ボランティアの方や音楽療法の先生にも参加していただいていた。現在、コロナ禍の現状をふまえ三密にならないよう、利用者の参加は見合わせたうえ、隣接している生涯学習センターみらいを利用し、スライドを使用した運営推進会議を開催した。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政担当者とは運営推進会議を通じて事業所の実績やサービスの取り組み等の情報交換を行っており連携、質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>両ユニット共有のテラスは開放し自由に活動していただいている。又、センサータイプの自動扉を活用し職員と一緒に保育園や敷地外へも出かける機会を設けている。身体拘束については、月に一回、委員会を設け、緊急時や、やむを得ない対応等話し合いを行い、家族への同意書面を作成し報告をしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>日常から利用者の小さな変化にも気づける力が養えるよう職員間で話し合い、研修に参加する等正しい知識が得られるようにしている。又、ストレスをためないように、ユニットミーティングで意見を出し確認している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護について、基本的な研修を行い、関連資料を閲覧できるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入退所時には面接で、十分な説明を行い、納得、同意を得られるようにしている。また、利用中も不安なく生活できるように、必要に応じて説明できるようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議を定期的開催し、利用者や家族等からの意見を聞く機会を設けている。参加できない方には、会議の議事録と共に、広報誌を郵送し利用者の活動、表情等の様子を目で見てお伝えできるよう配慮している。現在、コロナ禍の現状をふまえ、抵抗力の弱い利用者の三密状態を避けての開催を行った。</p>		

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各ユニットで月1回以上、ユニット会議を開催。また両ユニット合同によるグループホーム会議を月1回開催し、意見や情報交換や報告の場を設け、サービス向上に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	雇用管理者による年1回、個別面談を定期的に行い、就労状況の把握、人事希望により働きやすさの向上に努めている。また有給休暇を取得しやすいよう、職員間のコミュニケーションの充実を図り、併せてストレス対策をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修（新任職員研修、処遇職員研修等）の参加や認知症介護実践研修等の外部研修の参加の機会を設けている。また2ヶ月に1回、担当職員が自ら企画、進行しての施設内研修を実施し、職員の意欲向上に努めていたが、現在、コロナ禍の現状をふまえ、施設内外での三密状態となる研修は控えている。ケアプランの作成やアセスメント実施を通し、各担当職員に個別指導している。年一回の法人主催のベストサービスアワードについてZOOMを用いての参加を行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	例年、関連事業所、または地域の行事や研修会等に積極的に参加し、交流・意見交換を通して、業務改善、サービスの質の向上に努めている。また、法人内のグループホームとの交流会を実施しており、利用者の交流は基より、職員同士の情報交換の場となっていた。地域多職種交流研修等への参加もしていたが、現在、コロナ禍の現状をふまえ利用者は基より、同業者の職員間の交流も控えている。入退所連携窓口を活用し情報交換や情報収集に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始前に本人と家族を含めた事前面接を行い、要望・不安な点等を聞く機会を設けている。利用開始後も本人が納得されるまで傾聴し、思いを聞き取る努力をしている。毎日、モニタリングを行い、問題解決に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>利用開始前に本人と家族を含めた事前面接を行い、要望・不安な点等を聞く機会を設けている。利用開始後も来所時に利用者の様子を伝えたり、遠方の方には電話での状況報告等を行っている。また運営推進会議を通じて家族も思いを知る機会を設け、信頼関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>専門職が連携を取りながら、本人や家族と情報交換を行い、本人の希望に添えるように努めている。アセスメントシートを作成し、入所前の生活に近い環境になるように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>これまでの生活歴や大切にしているものを理解し専門性を活かした自立支援に努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>運営推進会議で定期的な利用者の近況報告を行っている。面会にも来ていただきやすい雰囲気作りを大切にし、利用者、家族、職員で協力し利用者を支えあう関係作りに努めている。家族状況を理解し、夜間の面会や電話の対応もしていけるよう工夫している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>施設関係者以外の来園に対しても明るく挨拶をし、いつでも来ていただけるような雰囲気作りに努めている。また地域のお祭りや買物外出、個別レクリエーション等を通じて馴染みの人や場所に関わるれるよう努めていたが、コロナ禍の現状をふまえ、祭り等の参加は控えた。</p>		

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活から馴染みの利用者を見つけただけのような関わりを心がけている。また、より一層深い関係や新たな関わりが持てるように配慮し、楽しんで頂ける行事の計画や支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了前には退所後の受け入れ先等の相談をし、関係機関と連携を密に図りながら、希望に添えるようにしている。その後の経過がわかるよう情報交換をし、これまでの関係を大切にできるようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から意識して言動や表情等から利用者の思いを汲み取るような関わりを持つようにし、また利用者や家族から一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向を把握しながら、できるだけ本人の思いを尊重できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者、家族、面会に来られた方、また施設関係者からこれまでの生活の様子等のお話を聞かせていただき、グループホームでの生活に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝のバイタルチェック時の数値、体操の際の表情や動きなどの様子観察をし、日々、利用者の生活リズムの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>適切な処遇が行えるよう、毎月モニタリングを実施、記録している。必要に応じて家族や主治医に報告、相談や話し合いの場を設け、本人の強みが活かされるよう介護計画を作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別にケース記録を作成し、日々の様子等の記録と合わせて、担当者がより細やかな気付きを記録し、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>既存のサービスに捉われないことなく、どうすれば本人や家族のニーズに対応できるか、また満足していただけるように、その都度職員間で話し合い、柔軟な対応が出来るように努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>例年、地域の行事に進んで参加したり、地元の高中生や傾聴ボランティアの受け入れ等、地域の協力を得ている。また音楽療法(月1回)の開催も含めて、利用者が活き活きと豊かで楽しい生活ができるよう支援しているが、現在、コロナ禍の現状をふまえ、ボランティアの受け入れは控えている。緊急事態宣言解除後は感染予防に努めながら、音楽療法(月一回、1ユニット30分)を再開している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人及び家族の希望のかかりつけ医で受診ができるよう、必要に応じて付き添いや往診の依頼等を支援している。協力医療機関が主治医になっている利用者には、月2回往診をして頂き、連携を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>体調の変化や気づき等があれば、直ちに家族、かかりつけ医に報告、相談をし、必要に応じて受診ができるように対応する。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時には医療機関と情報交換を行い、連携を密に図っている。退院においては入院中に状況確認を行い、受け入れ体制を整える。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入所前面談の際に終末期ケアを実施していないことの説明を行っている。入所後において、事業所で出来る事を主治医に報告し、今後予測出来る事柄を本人、家族とを十分に説明しながら方針を共有し、重度化した場合は安心して生活できる場の提供や相談を随時、行っている。介護、看護サマリーの情報交換を密にし、状況把握に努めるようにする。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>AEDや吸引機を設置し、急変時に備えている。救命救急研修や感染予防研修の実施。また、緊急時における救急搬送を円滑に行えるよう、エレベーター作動(ストレッチャー対応)の訓練を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>緊急連絡網を作成し、毎月実施する保育園の避難訓練時に参加している。夜間の災害を想定したマニュアルを作成し、慌てない対応が出来るようグループホーム職員間、周知を行っている。また、保育園が市との協定にて避難場所となっており、災害時情報の共有を図ることが可能である。</p>		

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーが損なわれないよう、入浴や排泄介助の際は出来る限り同性職員が行うよう配慮している。業務上やむを得ない場合、本人の了承を得る等を行い、又、記録の取り扱いについても慎重に行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自分の思いや希望が表出しやすい雰囲気作りを大切にし、職員との信頼関係が築けるように配慮する。また、利用者の思いに寄り添うような関わりも大切にする。表出が困難な方には馴染みの職員が表情の変化等を通して思いを汲み取ったり、ゆったり傾聴できる時間を持つようにする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	行事等の参加を無理強いせず、気分が乗らない方には自分のペースで過ごしていただけるよう、思いを聞き出し、支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外部の理髪業者に依頼(毎月1回)をして、希望者には施設内で散髪を実施している。毎朝、ホットタオルを提供し顔や手指の清拭を実施している。ハンドマッサージでケアし、綺麗になった手を眺めて頂くことで喜びを得てもらえるよう支援している。又、手鏡を各自お配りし、座って整容出来るよう工夫している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の盛り付けや配膳を職員と一緒にし、楽しい雰囲気の中で共に食事をしている。食器においても陶器を使用し、目で見て楽しめる食事の時間を提供している。嗜好や食事量を把握し、食べ切れる量や、おかわり等が出来るよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>日中、一人ひとりの体調をみながら、本人の希望する量にあわせて、提供している。又、夜間も自由に水分補給していただけるよう、一人ひとりに提供したり、介助が必要な方にはトイレ通いのタイミングなどで水分補給をしていただいている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後一人ひとりに口腔ケアをしてもらえるように言葉をかけたり、出来るだけ実施していただけるように支援している。就寝前は介助または見守りで口腔ケアを実施している。義歯の不具合等を家族に報告し、歯科受診をして頂けるように努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>自立、一部介助等、個々に応じて支援している。排泄に不安がある方には安心して行えるように配慮し、自立に向けた支援を個々に応じて行っている。必要に応じて排尿チェック表を作成し、紙パンツやパットの種類や使用を検討していく。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>適度な運動や水分補給で毎日、予防に努めている。排便チェック表を活用し、排便困難時には処方薬を服用していただけるよう医療機関との連携も図っている。体操時間を活用し腹部マッサージや腹式呼吸等を試み、自然な排便を促している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>特に入浴日や入浴時間を固定せず、希望される方には柔軟な対応を心掛けている。また、拒否のある方にも無理強いないせず、声がけや誘い方に配慮し、リラックスできる雰囲気作りに心がけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>日々、利用者の生活リズムを尊重し、一人ひとりの状態を見ながら、ゆったりとした雰囲気の中で過ごしていただけるように支援している。休息時には、その妨げにならないよう室温や寝具の調整に配慮している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方通り服薬していただき、確認している。症状の出方等、職員間で連携共有し、必要に応じて家族への相談、報告をし、医師、薬剤師とも連携を図っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>本人の体調を考慮したうえで、できる限り、食事の準備(とりわけ作業)やフロアの掃き掃除、食卓拭きや洗濯畳み等を行い「やりがい・役割」を見つけて頂けるよう支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>散歩や日用品の買い物等、日常的に行ったり、希望を伺って、足を延ばした外出支援が出来るよう計画、実施していたが、コロナ禍の現状をふまえ、買い物外出は控えている。季節や体調を考慮しながら、気分転換ドライブが出来るよう計画している。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>買い物の希望がある時は、必要に応じて施設で立替金を準備し、一緒に買い物外出できる機会を設け、家族の理解を得られるようにしていたが、コロナ禍の現状をふまえ、買い物は家族や職員が支援している。三密を避けた短時間での買い物外出も検討し計画している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人や家族の希望があれば支援を行っている。また、入所直後は不安な思いを家族に聞いてもらうため、緊急以外の用件で電話させて頂くことがある旨を家族に了承を得ている。携帯電話を所持されている方へのフォローや、又手紙を書かれる方へのポスト投函の援助を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	和を意識した設え。穏やかに過ごせる空間づくりを心がけている。リビングコーナーを自由に利用していただけるような配置にしている。又、夜間の消灯は就寝のタイミングに合わせる等、共有スペースと自室間の移行で心地よく生活リズムを確保できるよう工夫し居場所作りを図っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	馴染みの方や気の合った方とゆっくり過ごせるようなテーブル配置や自由に過ごしていただきやすいリビングコーナーの確保をしている。又、行事等を楽しんでいただけるよう、パーティー式の席の配置変更したりと、交流できるよう工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は本人や家族と相談しながら、入居前に使用していた馴染みのものを持ち込んでいただく等して本人にとって居心地のよい部屋となるよう工夫、協力している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	生活上の注意点、趣味等の情報を職員間で共有し、サービスの向上に努めている。また、カレンダーや時計を随所に配置し、ご自身のペースで活動して頂けるように工夫している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム向原

作成日 令和2年12月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	コロナ禍で利用者参加することができない運営推進会議の今後の在り方。	利用者の生活の様子をもっと伝えやすくし運営推進会議を継続しておこなう。	スクリーンにて写真報告とあわせて、できるだけ動画報告できるように取り組み、運営推進会議継続を図る。	12ヵ月
2	49	コロナ禍で外出が困難な状況であり、利用者のフラストレーションが気になる。	気分転換を図り元気に毎日が過ごせるよう支援する。	状況にあわせてドライブや密にならない散歩等を実践していく。	12ヵ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。